

「勿来高生は『名馬』」か

学 校 長

今年、平成22年もあと僅かである。何事もなく年を越せることはめでたいことである。過去に「無事これ名馬（無事之名馬）」という言葉がある。意味は「能力が多少劣っていても、怪我無く無事に走り続ける馬こそが名馬である」という格言である。

ともすれば我が生徒（子）の言動に一喜一憂する昨今であるが、これといった大きな災厄もなく、淡々と日常が無事に過ぎていくことの大切さを、今さらのように噛み締めていきたい。学校というところは、普段の地道な努力の積み重ねを大切にすべきところであり、たまたまその中から俊才や目立った業績も生まれる。また、若者が200人以上も集まっていて何事も生じないのは不思議だが、日々の何気ない営みの連続こそが、人生の価値でもあると感じている。あまり強調すると、負け惜しみにも受け取られてしまうが、精神的にも肉体的にも頑健であって欲しいと願っている。

締めくくりに、禅宗臨済録に「無事是貴人」（ぶじこれきにん）という言葉がある。茶道においては一年の無病息災を寿ぐ言葉として用いられる。感謝。

国立大学みごと合格！

今年度、本校では女子生徒が、国立大学に合格しました。

彼女は小学校1年生の時に将来の夢を決定し、その夢を実現するためには、様々な経験をする必要があると考えたそうです。そして、本校に入学してからは部活動や生徒会・ボランティア活動などを通して様々な経験を重ねるとともに、たくさんの検定試験にチャレンジしてきました。また、今回の推薦入試に向けては、先生方の個別指導を受けながら、毎日遅くまで面接や小論文等に熱心に取り組んできました。その努力の様子は他の生徒の模範となる姿でした。

本校からの国立大学合格は3年ぶりのことで、1・2年生にとってもよい目標を身近にすることができたと思います。早い段階での目標設定と強い信念があれば必ず成功するということを実現してくれました。

P T A 研修旅行



P T A 研修旅行が、平成22年12月3日（金）会員12名の参加により、開催されました。今年度は、同窓会バス（爽風号）を利用し、午前には水戸自動車大学校など5つの専門学校からなる八文字学園を見学しました。午後は、常磐大学と常陽資料館を見学しました。専門学校では就職に向けて実践的な教育がなされていると感じました。

本校では、学校教育目標に基づき様々な教育活動に取り組んでおります。10月にまとめた、中間評価の概要をお知らせします。

1 中間評価の方法

- (1) 教職員による各部、各学年、各教科による自己評価
- (2) 保護者によるアンケート
- (3) 生徒によるアンケート
- (4) 体験入学引率者によるアンケート
- (5) 教職員個人による重点目標に対する自己評価

2 中間評価の結果

(1) 各部、各学年、各教科による自己評価について

- ・各部の努力目標項目の平均は、3.5(5段階評価:以下同様)で昨年とほぼ同じ結果であった。
- ・教務部 4.0、生徒指導部 3.8 の評価が高い結果となった。
- ・各学年の努力目標項目の平均は、3.0 で昨年と同様の結果であった。
- ・服装など生徒指導カードの効果が現れている部分もあるが、欠席・遅刻・早退は、特定の生徒に偏る状況が各学年において見られる。
- ・各教科の努力目標項目の平均は、3.3 で昨年よりやや低い結果であった。
- ・国語、数学、英語、理科、地歴・公民の平均は、3.0 で基礎学力の定着や資格取得において厳しい評価がされている。

(2) 学校経営・運営ビジョンへの期待について

ア. 保護者アンケートから

「資格取得の奨励」が 67.7(%:以下同様)で昨年同様一番多く、「基礎学力の定着」が、66.5 で次に多い。「進路意識の高揚」が 59.0 と昨年より増加が著しい。「資格取得の奨励」が引き続き 1 位であることや、「進路意識の高揚」が上位になっていることは、就職が困難な状況を反映しているものと考えられる。

イ. 生徒アンケートから

「基礎学力の定着」が 45.3 で昨年引き続き一番多く、「資格取得の奨励」42.5、「授業内容の充実」42.0 で若干数値の差はあるものの期待する種類は昨年と同様の傾向である。また、学力の向上に期待が高く、「基本的な生活習慣の確立」や「規範意識の醸成」等については期待が低く二極化しており、教員が必要と考えていることとは乖離していることが伺える。

ウ. 体験入学引率者アンケートから

本校の教育活動において重要と思われる項目としては、「基礎学力の定着」が 78.0 で群を抜いている。また、保護者(44.0)よりは教員(86.0)の方がそれを強く意識している。特徴的なのは、「規範意識の醸成」について、保護者(17.0)と教員(71.0)で生徒アンケートと同様に大きな隔たりがあった。今後の取組として重要と思われる項目では、「授業内容の充実」(61.0)「資格取得の奨励」(50.0)があげられている。

(3) 教職員自己評価について

昨年の結果と比較すると、5つの項目で改善が見られたが、「図書館利用の奨励」「進路講演会による進路意識の高揚」「正しい言葉遣いを体得させる指導」「校内生活健全化のための保護者との連携」の項目において、評価が下がった。「図書館利用の奨励」は10月より図書館ボランティアを迎え、改善の一助になると考えられるが、工事のため図書館が使用できないので、貸出などの対策が必要である。また、進路講演会については12月に開催予定である。

あいさつなど基本的な言葉遣いもできない生徒がいるため、日々の教育活動を通してねばり強く指導していきたい。

◎詳しくは、本校ホームページ

<http://www.nakoso-h.fks.ed.jp>に掲載してありますのでご覧ください。